



# なすびの花

## オシロスコープ

皆さまは、『オシロスコープ』という計測器をご存じでしょうか。

先月号でもお話ししていた、製造課の教育活動で、11月のテーマに『オシロスコープ』が入っていたので、今回もまたISO事務局で取材しました。

『オシロスコープ』は、作業の中で使用している方もいらっしやるかと思いますが、用途をよくわからずに使用されていることもあるのではないのでしょうか。

当日の勉強会は、品質保証室のTさんが講師となって、『デスター』と『オシロスコープ』を運び込み、電子部品が実装された教材を用いて色々な使い方についてレクチャーされていました。

取材で参加した私たちには、勉強会の内容が、少し難しかったので、『デスター』と『オシロスコープ』の基本情報を、勉強会の後に調べてみました。

『デスター』と『オシロスコープ』は、電気測定を行う機器です。

まず『デスター』というのは、別名『マルチメーター』と呼ばれます。

電圧などを測定する場合、『デスター』は平均値を出力し、『オシロスコープ』は正確な電気信号を捉えることができます。

この二つの大きな違いは、**時間軸**があるかどうかで、『デスター』は**時間軸**を持たず、直近の電圧または低い周波数の電圧にしか反応しません。

『オシロスコープ』は、「**電圧の動き(電気信号)**」を「**時間の経過**」に沿って波形として表示します。

水平軸が時間軸で、垂直軸が電圧値が表示される2次元表示となっています。

勉強会では、LEDの点滅する時間間隔を、『オシロスコープ』の波形で実験されていました。

『オシロスコープ』は、電気信号に変換さえできれば、音声、湿度や温度、圧力など色々なものが測定できます。

そう言えば、バラエティ番組等で、マイクが拾った音声を使って、波形で何が出している音かを解析される時にも、見かけますね。

製造業では主に、不良症状の解析、設計した回路の確認等で使用しています。

特に、**品質保証室**や**開発部**で活躍する測定器ですが、**製造課**でも修理工程などで使用されているかと思えます。

他の部署では馴染みがないかも知れませんが、今回の勉強会を取材して、社内ではこんな測定器も活躍していますよとご紹介しました。

## 住宅の耐震化

大きな地震がいつ起こるか不安な昨今ですが、皆さまの中にも、古い木造家屋にお住まいの方がいらっしゃるのではないのでしょうか。

昭和56年5月31日より前に着工した住宅は、旧耐震基準で建てられた建物となり、同年6月1日以降だと、新耐震基準で建てられています。

平成7年の阪神淡路大震災時、6434名の尊い命が失われ、**死因の9割が住宅の倒壊による圧死**でした。

その後の調査で、被災した木造家屋の**98%が旧耐震基準での建造物**だったことが明らかになっています。

亀岡市のHPを見ると、

『令和8年度末までに住宅の耐震化率を**95%まで引き上げることが目標**』

と書かれています。

耐震工事にも色々種類があり、とても気になったので、建てられてから55年経過しているという住宅の耐震工事の一例を、見つけた動画で見ってみました。

事例では、家屋の外側は一切触らず、屋内の数か所の基礎と壁の補強をされていました。

お金のかかることなので、なかなか一步を踏み出せないようなお話ですが、調べると自治体ごとに補助金も下りますので、古い木造家屋にお住まいの皆様も検討してみたいかがでしょうか。

## 年末年始休暇

今年の年末年始の休暇は、

12月29日～1月4日までです。

※暴飲暴食に注意しましょう!